

全熱交換器組合せ用直膨コイル 据付工事説明書

PCH012D004

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線(室内)は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付風の説明書をご覧ください。
電気ユニットの据付方法は、電気配線(室外)及び冷暖配管工事方法は、室外ユニットの付風の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの接続板をご覧ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、(△警告) (△注意) に区分してありますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性があります。必ず「△警告」の欄にまとめて記載してあります。しかし、「△注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。必ず「△注意」の欄に記載した事項でも、必ず守ってください。
- 据付工事後、試験運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書に記した「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方(エアフィルタの清掃、運転操作の方法等、温度調節の方法等)をお客様に説明してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書をお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

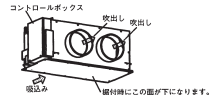
- 据付には、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると、感電、ケガの原因になります。
- 小部屋に据付する場合は、万一冷媒が漏れても限界温度を超えない対策が必要です。
限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据え付ける。万一、冷媒が漏れて限界温度を超えると火災事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気を要する。
冷媒が火気に触れると爆発する原因になります。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- エアコンの設置や移動の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気等を入れない。
空気等が進入すると冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」(「内線規程」)及び取扱説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、離子ケーブルが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取り付けが不完全な場合は、離子ケーブルの発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付工事後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
既存(R22)の配管を使用すると、機器の故障と同時冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグだけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、かたつきがないことを確認し、力の加減で確実に差し込む。
ホコリの付着、詰まり、かたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける。
冷媒配管を取り付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ボンプダウン作業は、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据え付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 室内機の修理・点検作業に際して「室内機電源ブレーカー」を必ず落とす。
点検・修理にあたっては、室内機電源ブレーカーがONのままで、感電および室内機ファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に据付工事を始める。
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

△注意

- アース(接地)を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や感電の恐れがあります。
- 正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+8種ヒューズ)・配線遮断器)を使用する。
大きな容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になります。
- 正しい容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になります。
- 安全な銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れのある場所への設置は行わない。
ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になります。
- 可燃性ガス(亜硝酸ガス等)、可燃性ガス(シンナー、ガソリン等)の発生、滞留の可能性がある場所、揮発性引火物を取扱う際の据付けは、使用は行わない。
熱気、燃焼、プラスチック等の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 洗面室等、水の掛かる場所では使用しない。
室内機は水の浸入に対する保護はしてありません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。
- 食品、動植物、精密機器、美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保管物の品質低下等の原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据え付け、使用しない。
インパルス機器、自家発電機、高周波治療器、無線通信機器の影響によるエアコンの動作故障や故障の原因になり、エアコン側から電磁波を発生する通信機器の影響を与える原因を避けたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にユニットを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所での据え付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れのある場所
・可燃性ガス・燃焼ガス・酸・アルカリ等、機器に影響する物質の発生する場所
・油の飛沫や蒸気が多い場所(調理場、機械工場等)
・車庫・船舶移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻りに使用する場所
・湿度の多い場所
・煙突の煙がかかる場所
・性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内機から露が滴下し損害が生じる恐れがあります。
- ドレン工事は、取扱説明書に従って確実に排水するように配管する。
不備な場合は、室内に発生し、腐敗等を招く原因になることがあります。
- ドレン配管は破損防止用、有電圧の発生する排水溝には直接入れない。
室内に有電圧が流入し、中電や感電などにつながる恐れがあります。
- ドレン配管は下向き(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試験運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は確実にし、断熱材の劣化を防ぐ。
断熱材の劣化を防ぐには、断熱材の劣化を防ぐ。また、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 製品の重量は充分に注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど指定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手でファンなどに触れるとケガをする場合がありますので作業員をご確認ください。
- 細部材の処理は確実に行う。
梱包材にクギ等の金属類は、必ず使用してありますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態で非常に低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。
- エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源スイッチによるエアコンの運転停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

●必ず、全熱交換器と組合せ、使用してください。

②の風量範囲で使用してください。



①据付のまえに

- 据付はこの取扱説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
- 機種・電源仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

付属品収納場所(梱包時)

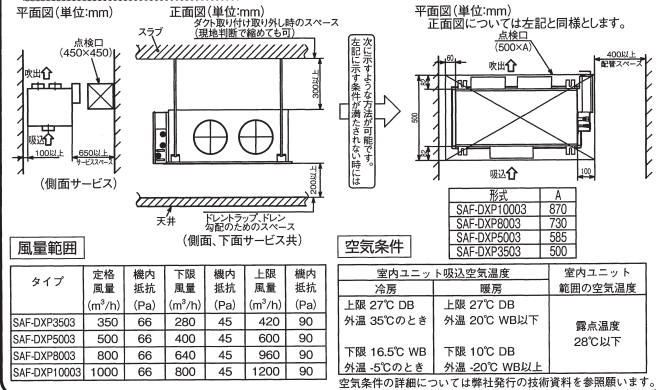
付属品	数量	用途
パイプインシュレーション	1個	冷暖配管保温用

②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または暖風が十分に行わたる場所。据付高さが3mを超える暖気は天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - 据付・サービス時の作業スペースが確保できる場所。
 - ドレン排水が確実にできる場所。ドレン勾配のとれる場所。
 - 吸込口、吸出口に風の被害のない場所。火災警報器の誤作動しない場所。ショートサーキットしない場所。
 - 侵入外気の影響のない場所。
 - 直射日光の当たらない場所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の場所。
- ②本ユニットは、JIS規格に準拠して試験を行い、不良品がないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度・高湿度の状態を運転すると水漏れが落ちる恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全周および配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。
- テレビ、ラジオより1m以上離れた場所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
- ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等置けることによる火災の恐れがあります。
- 調理器具が熱気・油・煙・臭気等を直接吸込みません。
- 据付しようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われる板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

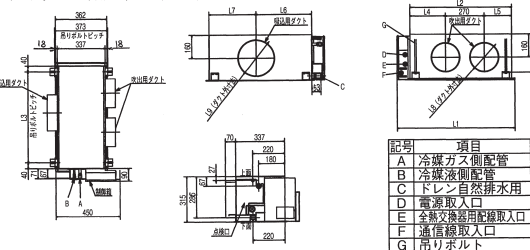
室内ユニット据付スペース

- 据付高さは2.5m以上とってください。



③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合
吊り長さ(吊りボルト長さ) 500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレートを設置する。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接吊り下がる場合
吊り長さ(吊りボルト長さ) 1000mm以上の場合に耐震プレートを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金(M10)を4組現地で手配してください。



形式	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9
SAF-DXP10003	822	710	630	250	190	385	325	2-φ200	φ250
SAF-DXP8003	682	570	490	320	250	320	250	φ250	φ250
SAF-DXP5003	537	425	345	212.5	212.5	212.5	212.5	φ200	φ200
SAF-DXP3503	452	340	260	170	170	170	170	φ150	φ150

④室内ユニットの据付け

据付

(吊り込み)
○ユニットを吊り込んでください。

○本体を据え付けるとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

水平度の調整

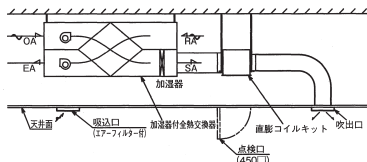
お願ひ
○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行なってください。

○水平度がでない場合、フロントスイッチの動作が鈍いまたは不動作の原因となります。

(吊りボルト固定方法)

○吊りボルトの取り付け方法で吊りボルトを固定してください。

⑤ダクト工事



- ①エアコン本体にはエアフィルタが付属されています。掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
- ②吹出口は室内全館に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- ③天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ④ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは65mm (JISA 9501) です。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
冷媒R22で使用する際は既設配管を使用する場合は、下記点に注意してください。
・薄肉配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金組目無銅管 (C1220T、JISH 3300) をご使用ください。
また管の内外面は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化物質、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
R410A以外 (R22等) の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とも口付けする直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。
- 室内機配管はサービスパネルを取り外し可能とするため配管方向がどのような方向でも必ずユニットから400mm以上のストリート部分を設けてください。

作業手順

1. ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
2. 室内機のろう付部は、ガス漏れ完全した後、断熱材 (現地手配) をかぶせてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。現地に断熱材を手配し断熱してください。断熱材の厚みは20mm以上としてください。
3. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

形式	液配管	ガス配管	液配管	ガス配管
SAF-DXP10003	φ9.52	φ15.88	φ6.35	φ12.7
SAF-DXP8003	φ9.52	φ15.88	φ6.35	φ12.7
SAF-DXP5003	φ9.52	φ15.88	φ6.35	φ12.7
SAF-DXP3503	φ9.52	φ15.88	φ6.35	φ12.7

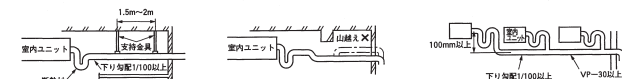
⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

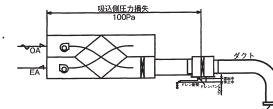
- ドレン配管は必ず保温してください。保温は室内機内のドレンパン側面のソケット部まで行ってください。
配管工事に不備があると、水漏れにより、家財・電算機等を濡らす原因となります。
- ドレン配管を接続する場合、室内機側の配管に力を加えないように注意して行い、出来る限り室内機近傍で配管を固定してください。
- ドレン配管は、室内機外側に下り勾配 (1/50 ~ 1/100) とし、100mm以上の水封が作れるトラップを設けてください。(臭気止め、逆流防止のため)
- 配管施工後、排水が良好に行われていること、水漏れのないことをご確認ください。
- ドレン配管の出口は臭気発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレンパンは定期的に清掃してください。
- ドレン配管サイズは途中で細くしないでください。またドレン配管が集合する場合は十分な太さとしてください。

警告

ドレン配管は、硫黄系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

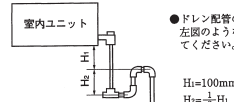


ご注意 ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。



トラップの施工

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを (配管工事のとき) 1箇所設けてください。
トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。右図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも右図の寸法としてください。
トラップはユニットの近くに設けてください。



- ドレン配管の途中に1箇所、左図のようなトラップを設けてください。

H₁=100mm
H₂=1/2 H₁

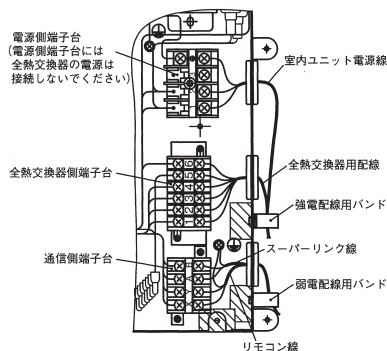
排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。
○点検口をはずし、ドレンパンに1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。
又、水漏れのないことをご確認ください。

⑧電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」(内線規程) 及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事は、付属の電気配線工事説明書 (PCH012D005) をご覧ください。

1. 電装箱の蓋 (ねじ2本) を取外し、上部の引掛けを外してください。
2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線図を参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



詳細は付属の電気配線工事説明書 (PCH012D005) を参照ください

⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良など	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
②の風量範囲に入っていますか。	冷えない・暖らない	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖らない	

- チェック終了後、試運転を行ってください。試運転は室外機据付工事説明書に記載の手順で行ってください。

電気配線工事説明書

PCH012D005
202008

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がりやすいように整形し、カバーを確実に取付ける。カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、力の限りまで確実に差し込む。ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
- 点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。
- 感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

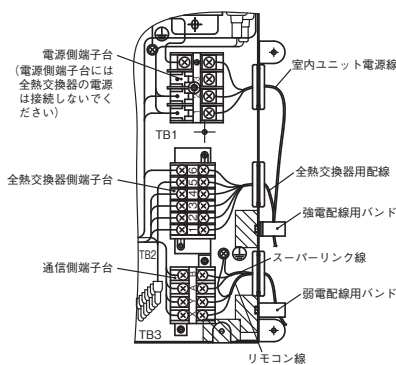
- アース（接地）を確実に行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。
- 正しい容量のブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
- 針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
- 端子台のねじ締めやゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。必ず5分以上待ってください。水濡れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。火災や水濡れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。



②電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋（ねじ2本）を取外し、上部の引掛けを外してください。
2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。コントロールボックスの蓋に貼付の結線図板参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



③アドレス設定

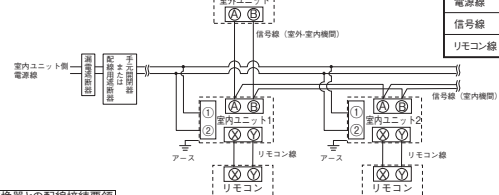
アドレス設定は、(1) 手動アドレス設定、(2) 自動アドレス設定の2方法ができます。自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。



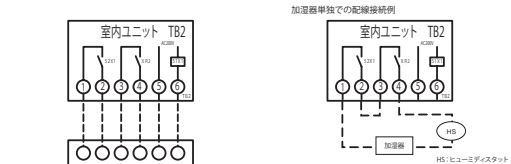
①電源・室内外・全熱交換器配線の接続

- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置してください。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 室内ユニットに接続する電源線は3.5mm²まで使用可能です。5.5mm²以上の配線を使用する場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
- ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
- 天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
- 信号側端子台に200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- 信号線を途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。
- 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。
- ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
- ①ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱の蓋を取外し、電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース端子に接続してください。
- ②電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機NVCシリーズまたは、その同等品）を満足してください。
- ③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

配線系統図（室内・室外ユニット接続要綱）



全熱交換器との配線接続要綱



- ③の暖房出力は、運転/停止に関わらず、暖房モード時に出力されます。必ず、SAFの運転に連動して加温器が運転する接続としてください。

- 必ず、SAFの運転に連動して全熱交換器が運転する接続としてください。
- 詳しくは全熱交換器取付説明書・取扱説明書をご覧ください。

電源仕様

室内機電源仕様		漏電遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
形式	型番								
SAF-DXP3503	5003	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	2000m	0.75~1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
	9003								
	10003								

- 注1. 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。上記の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。
- 注2. リモコン線の延長距離が100mを超える場合は、③リモコンの取付けに従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチの場合

- 分注コントロールの配線
- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分注コントローラ（別売品）に付属の取付説明書をご覧ください。



④リモコンの取付け（別売部品）

- 次の位置へ取付けないでください。
- 直射日光の当たる所
- 発熱器具に近い所
- 湿気の多い所、水が飛散する所
- 取付面が発熱・結露する所
- 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
- 取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

- ①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。
 - ②リモコン線は、0.3mm²×2心の電線またはケーブルを使用してください。（現地手配）
 - ③リモコン線の総延長は600mです。延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。
- | | |
|------------|-------------------------|
| 100~200m以内 | 0.5mm ² ×2心 |
| 300m以内 | 0.75mm ² ×2心 |
| 400m以内 | 1.25mm ² ×2心 |
| 600m以内 | 2.0mm ² ×2心 |
- ④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。
 - ⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。
 - ⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）

1リモコンによる複数台室内ユニット制御

- ①1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。同一モード、同一室温設定で運転します。
- ②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。
- ③室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。○室内ユニット基板のロータリーSW1、SW2により、室内No.を重複しないように設定してください。○室外ユニットの室内No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
- ④右図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。

電源投入後、リモコンのエアコンNoを押すと室内アドレスが表示されますので、**▲**ボタンで接続されている室内アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

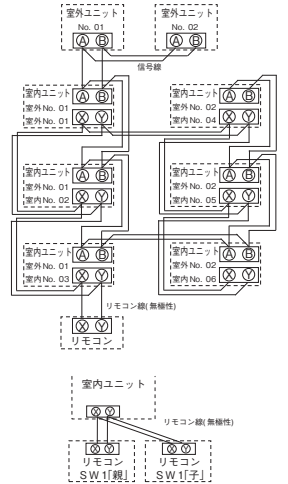
室内ユニット確認方法

エアコンNo.が表示されている時に**■**運転切替ボタンを押すとそのNo.の室内ユニットが送風運転します。（表示例：「内000送風」）再び**■**運転切替ボタンを押すと、送風運転を停止します。但し、エアコンが運転中の場合は無効です。

複数リモコン使用時の親子設定

室内1台（又は1グループ）に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン＋ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

- ①子リモコンの切替スイッチ（ワイヤードリモコン：SW1、ワイヤレスキット：SW1-2）を「子」に設定してください。初期設定は「親」設定です。
- 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



スイッチ	設定	機能内容
ワイヤードリモコン SW1	親	親リモコン
ワイヤレスキット SW1-2	子	子リモコン



